

つくもかみ

付喪神というのを御存じだろうか。それは長い年月を経て古くなった道具に魂や精霊が宿り、妖怪になっただものだ。

まだ使える道具を捨てたり、おろそかに扱ったりすると付喪神に災いをもたらされるらしい。つまり、物は大切にしなければいけませんよ、という先人の教えなのだろう。本当に妖怪に化けるかは置いておくとして、道具は使えば使うほど愛着が沸き、表情までをも見てとれるときがある。

人の手によって書かれた文字にも同じことがいえるのではないだろうか。文字には書いた人の性格が表れ、綴られた文章には想いが注がれる。読んだ相手は、書き手の心に触れて温度を感じたことはないだろうか。ただの通信手段でしか交わった文字に魂が宿った瞬間だ。

通信手段といえれば、今は携帯電話のメールやパソコンのワイプロ機能が普及している。馴れ親しむ人達にとって文字は書くというよ

りも打つという感覚だ。工場のベルトコンベアに乗せられた材料が瞬く間に製造されてゆく、スピード重視の現代には仕方のない変化だと思ふ。

変換機能のおかげで、ひらがながすぐに漢字へと化ける。それが原因で、最近、手書きで漢字を書けないうという人が増えている。書けないうからこそ、また変換機能に頼り、文字を書かなくなる循環が生まれるのだ。

手で書く行為はパソコンで打つよりも時間がかかろう。だから面倒臭がる人が多い

文字という名の付喪神にもたらされた災いとは、時間に余裕のない人の心を作りだしたことも交のかもしれない。

時計の無い部屋で縄やかな気持ちになって、いろいろと試行錯誤しなから友人にでも手紙を書くのも一つの癒しになるのだと私は思う。